

木目込み あやつり人形の組立説明書

すぎたあきとし
杉田明十志

キット内容。

- ①本体(頭、胴、両腕、両足) ②目(2個) ③コントロール本体
④後ろの棒 ⑤真鍮フック ⑥首関節 ⑦脚関節(アルミ針金2本) ⑧U字針金(長4個、短4個) ⑨ステンレス針金 ⑩爪楊枝(5本) ⑪白い紐 ⑫カタン糸(#30 約4.5m)



＊

あやつり人形 制作上の注意点。

小さい人形ですが、スジボリを細かく入れてあります。深く彫るとこわれやすくなるので全体に浅めです。生地の方の端の処理には、通常より少し注意が必要かもしれません。

作業の流れ。

1、木目込み⇒2、面相(目の取り付け)⇒3、U字針金の取り付け。
⇒4、人形の組立て。⇒5、コントロールの組立て⇒6、糸張り。

制作に必要な道具など。

●ピンセット ●ニッパー(細いステンレス線を切れるもの。
プラモデル用は不可) ●ラジオペンチ(先の細いペンチ) ●目
打ち ●反はさみ ●両へら ●色鉛筆、パステル、お化粧道具(色は、朱、黒、こげ茶)など(お顔を描くのに使います。) ●のこぎり(歯の細かいもの) ●瞬間接着剤 ●木工用ボンド

1、木目込み

1-1 頭

肌にはシボの細かい縮緬がよいでしょう。縮緬は桐塑の細かい凸凹を目立たなくしてくれるので、綺麗に仕上げやすいです。平織の生地でもできますが、桐塑の小さな凸凹も拾ってしまうので、その場合は丁寧に下地を整える必要があります。

ちょうどいい肌色の生地がない時は、自分で白い生地を染めるとよいです。染料で綺麗に染められればよいですが、アクリル絵の具でも、綺麗にできます。

-
- ① まず生地を湿らせて、水分を吸わない台に貼り付けます。(ペーパーパレット、ガラス、陶器など)。
 - ② アクリル絵の具を調色します。(例：リキテックスのライトポートレートピンク+少量のイエロー)。染料を作るつもりで、たっぷりの水で溶きます。
 - ③ 調色したアクリル絵の具を全体にむらなく染みこませます。
 - ④ 平らに静置して、乾かします。薄すぎる場合は、もう一度湿らせ、絵の具を染み込ませます。
-

顔にはスジボリがありません。顔全体に糊を薄く塗って生地を接着してください。口など、細かいところもへらでおさえて接着します。ここは寒梅粉より木工用ボンドの方が糊染みが出にくく、乾燥が早いので作業がはかどります。

ただ、木工用ボンドは、貼り直しが難しいのでご注意ください。
剥がす時に、桐塑生地 of 細かいところが壊れます。

首のくぼみは、生地が浮かないように接着してください。(くぼみの接着も、木工用ボンドが確実です。)

首関節を取り付ける穴の内側には、生地を貼らないでください。

眼窩には、目の軸を挿すところに穴をあけておいてください

前髪の根元(頭頂部)に小さな穴をあけてあります。首関節を固定する針金を通す穴です。頭髪を木目込んだ後、針などで突いて、針金を通るようにしておいてください。

1-2 胴



脚のくぼみ、腕のくぼみの部分を、生地が浮かないように接着してください。

また、頭と同様に、**首関節を取り付ける穴の内側には、生地を貼らないでください。**

肩に、肩と腕を繋ぐ紐を取り付ける、小さな穴が空けてあります。わからなくならないよう、木目込み後、目打ちで空けなおしてください。

1-3 脚

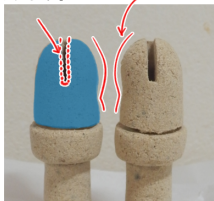
脚の関節の溝の内側には生地を貼らないでください。

溝の縁のところまで生地を貼り、溝の縁で生地を切ります。この縁も、生地が浮かないように接着してください。

脚の付け根に、脚関節の軸を差す穴があります。木目込みがおわったら、目打ちで穴をあけておいてください。

生地はここまで。
縁で切ります。

左右で形が
違います。



1 — 4 腕

胴と同様に、肩の紐を取り付ける穴を、木目込み後にあけておいてください。

2、面相

目を入れる前に眼窩の縁を、色鉛筆などで描きます。眉の形、位置、角度はとても重要で、ちょっと変えるだけでお人形の性格が変わります。



目と離れていて、ちょっと垂れ気味の眉。かわいらしい感じ。



眉を描かない。(前髪に隠れている。)睫毛を多めに描いて、女の子風。

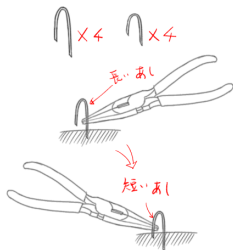


目に近いところに横に引く。ちょっと賢そうに見えます。



ぶり気味で、わんぱく坊や。

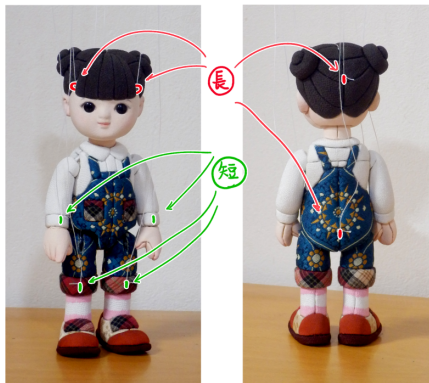
3、U字針金の取り付け



U字針金を、全身8か所に取り付けます。U字針金は、糸を結ぶ金具です。長いものと短いものが4つつずつあります。それぞれの脚は、片方が長くなっています。

とりつけ方は、まず長い方の脚をラジオペンチでしっかり挟み、所定の位置に挿します。短い脚が生地に当るまで差し込んだら、短い方を挟んで少し差し込みます。また挟みかえて少し押し…これを頭が2～3mm出た状態になるまで押し込みます。

取り付ける場所は図の通りです。



4、人形の組立て

4-1、脚の取り付け

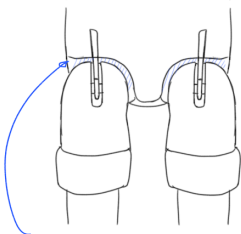
脚関節はアルミ線です。曲がりやすいので、注意してください。爪楊枝は、頭の「こけし」のところを折取って下さい。



アルミ線を持って、脚をぶらぶらさせてみましょう。引っ掛からず滑らかに動けばよし、です。



脚関節を、この穴に差し込みます。アルミ線は長めになっていますので、穴に差し込んでみて、長すぎる分をニッパで切り詰めます。

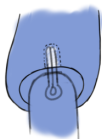


胴の窪みと脚の付け根の間が、脚を動かしても接触しないくらいまで(およそ2～3mmの隙間)、詰めて下さい。



木工用ボンドを、へらで穴に詰めます。

穴がボンドで満たされている、でも穴からはみ出していない、という状態が理想です。



アルミ線にも薄くボンドを塗る。

脚の長さは揃っていないかなければなりません。



ボンドが乾くまで、静置しておきます。

4-2 首関節の取り付け

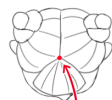
金具の差し込みが緩い場合がありますので、最初に金具が抜けないか確認してください。緩い場合は、瞬間接着剤で接着してください。

まず長い方の棒を頭に差し込みます。首のくぼみから棒の先が少しだけ出る程度になるまで棒をのこぎりで切り詰めます。

この分が長すぎるので…

ここをのこぎりで切る。

首の方も、頭と同様の方法で切り詰めます。長さは、**首側の金具が首の中に入る所まで**、です。



針金を頭の穴に通し、長い棒の端の穴に差し込み、瞬間接着剤で固定します。

針金

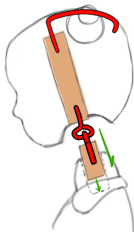
金具の向きに注意！

先端をペンチで曲げる

奥まで入れて、針金の先端を曲げ、頭髮の分け目に埋まるように繞めて先端を分け目に差し込みます。針金は、長すぎないように、あらかじめニッパーで切っておきます。



首側の棒を首に差してみて、首の長さが丁度好いか、もう一度確認してください。



首の穴にボンドを入れて、首の棒を差し込みます。

4-2 腕の取り付け



腕は紐でつながります。先に腕の肩の穴にボンドを入れ、紐を目打ちなどで押し込みます。ちょうど良い長さになるように紐を切り、胴の肩の穴にボンドを入れて、紐を押し込みます。

5、コントロールの組立て

コントロールをこのように組み立てます。

後ろの棒は、穴が上下に向くように差し込みます。

6、糸張り

糸の長さは任意ですが、短めにする
とテーブルの上などでも楽しめます。

最初に頭の糸を張り、それに合わせて
他の糸の長さを決めますが、およそ
その長さは、

頭(赤)・・・30cm

脚(緑)・・・60cm

腕(紫)・・・12cm(左右繋がっています。)

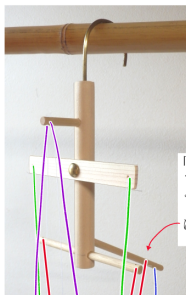
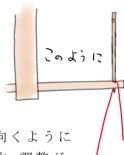
お尻(青)・・・45cm

最初に、**頭**の三か所の金具に糸を固
結します。糸の長さは「30cm プラス結
びしろ」で、40cm くらいです。

図のようにコントロールの三か所
の穴に糸を通して、爪楊枝で
仮止めします。

仮止めのまま、
コントロールを
ハンガーラック
などにぶら下げ
ます。

顔が真直ぐ正面を向くように
糸の長さを調整します。調整が
できたら、糸を固結びして、爪楊枝を
取ります。



次に**脚**の糸を張ります。糸の長さはコントロールのシーソー板から膝までプラス結びしろですが、すこし緩めに張りますから、2～3 cm 余裕をもって切ってください。

張る手順は頭と同じです。板に糸を結ぶ前に、実際に脚を動かしてみましょう。張りすぎていると、頭と一緒に脚が動いてしまいます。緩すぎると、脚の反応が悪くなります。ちょうど良い感触を、実際に動かして見つけてみてください。

腕は、一本の糸でつながっています。先ず片方に固結びします。コントロール上部の突き出している棒の穴に糸を通します。もう一方の手に、方結びします。手の糸も、頭を動かしても手が動かない程度に緩く張ります。

最後の**お尻**の糸を張ります。頭を前に傾けてもお尻が持ち上がらないように緩く張ります。



これで、完成です！

次ページの絵を参考にして、動かしてみてください。

ウェブサイトやブログ、ツイッターなどでも、この組立説明書とあやつり人形の動画をご覧いただけます。

杉田明十志の、
ブログ

hyakueido.sblo.jp

ツイッター

twitter.com/hyakueido

ウェブサイト

www.hyakueido.sakura.ne.jp

